



田島 征彦 ⑧
絵と文

おのころ島淡路島に、
家を買って引っ越してき
た。この家を買ったのは、
小説家の灰谷健次郎さん
だ。作家には書斎と本棚が

で、売れるはずのない大き
な作品をたくさん創ってき
た。以前まで住んでいた京
都丹波の作品棚を満杯に
して、残してきた。それら
を取めるために、灰谷さん
が造った大きな鶏舎を鉄骨
の倉庫に建て替えた。これ
でやっと大事な作品たち
も、おのころ島へ越してき
たのだ。次は仕事場だ。
妻のヒテコに「アトリエ
はどこに建てようか？」と
言ったら、「そんなお金が、
どこにあるの？」と機嫌が
悪い。

料の助剤の臭いが籠もった
り、友禊糊が腐って、中の
空気が息苦しくなってきた。
変な咳が出て、気分が
悪い。ヒテコが街へ出て
もらってきたマンションの
チラシを広げて「ワタシね
アンタが死んだら、こんな
田舎の寂しいところへ、一
人で住むのカナワンから、
京都のマンションに住みた
いねん」とうれしそう顔
をしている。

森本くんは、高校を卒業し
たあと、土佐育英協会の
京都の学生寮「土佐塾」で
も一緒に、部屋を互い
に訪問し合った仲だ。
森本くんは京大の建築科
を出て設計事務所へ勤め、
建築家として活躍してき
た。JR山陰線の京都一糸
駅舎は、彼の代表作である。
帆船を形とった建築は世界
的な建築デザイン賞を受賞
している。

来てくれた。倉庫兼アトリ
エの前に立つて長い間、沈
思黙考…。そして手を打っ
た。
「鉄骨の倉庫の上にアト
リエを造ったらええよ！
基礎工事もあるから安
くできる。かなり高いとこ
ろにアトリエが載るから、
見晴しが良いし、涼しいこ
と受けあいや！」
森本くんと入れ違いに帰
ってきたヒテコに報告した
ら留守中の秘密行動を不問
にしてくれた上、
「安う建てられるんやっ
たら、すぐ鉄工屋さんに相
談したるワ」
と、自分の仕事できた
ことを喜んでるふうだ。
明るくて、島中が見渡せ
るような見晴しの良いアト
リエができる。夢のよう
だ。咳も止まった。

アトリエが欲しい

（絵本作家）
毎月最終火曜日掲載

